

日本キリスト教会大阪北教会

2017年1月22日 聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書15章11～17節

15:11 これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。15:12 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟(名詞)である。15:13 友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。15:14 わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。15:15 もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。15:17 互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

説教『友のために命を捨てる。それが愛です。』

◆今日は3階の日曜学校の部屋から子どもたちのにぎやかな声が聞こえてきますけれども、5年生と2年生の西村さん姉弟が4年生の溜衣ちゃんを誘って日曜学校へ来たのです。そんなことで日曜学校はとても活気があって嬉しいことです。私は、昨年来、子ども達に見習わなければいけないな、と思うことがあります。子どもたちは正直です。子どもは友達を教会に誘ってくるのですね。去年の秋にもありました。人はイヤなところには友達を誘いません。一人の新しい子供が教会に訪れるということは、本当に嬉しいことです。神様の祝福だと思えます。

◆それで今年2017年が、宗教改革500周年記念の年になるということは昨年来しばしば申し上げてきました。宗教改革のモットーがあります。一つは「聖書のみ」、それから「恵みのみ」、そして「信仰のみ」、そしてもう一つは「万人祭司」です。「万人祭司」とは全てのキリスト者が祭司だということです。カトリック教会には「位階制」があります。つまり、「聖職」と「平信徒」の区別です。しかし、宗教改革は、「万人祭司」回復したのです。キリスト者の自覚を高めたのです。信徒一人一人が祭司なのです。「祭司」という言葉には「橋渡しをする人」という意味があります。神と人との仲立ちをする者、それが「祭司」です。ですから今日の日曜学校で起こったこと子どもがお友達を日曜学校に誘うというのは、正に神様とお友達の仲立ちをする生徒がいたということですね。私達一人一人が神様と家族の、神様と友人の仲立ちになる。2017年をそういう年に行きたいと思えます。

◆宗教改革者マルチン・ルターは聖書を読みました。懸命に読みました。そして彼は旧約聖書と新約聖書を原典から母国語のドイツ語に翻訳しました。翻訳は大

変な作業です。原典を丁寧に読みます。聖書を丁寧に読む。読んで、その教えに生きた。それが「宗教改革」と言われる出来事を生み出したのです。丁寧に読むとは、一字一句を丁寧に読むのですが、聖書の全体を念頭において、そして聖書を一貫しているものを見失わないで、一字一句を丁寧に読むということです。そうしませんと読み違いをしますね。しかし全体を念頭において、ここで言われていることは何なのか問うならば、よりよく聖書を理解する事ができると思います。

◆いずれにしても、今、私たちが生きているこの時代は、内外共に変革期に差し掛かっていると思います。私たちの教会もまたそうです。今日の日曜学校では、コリント前書13章13節によって説教しました。「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」只今、司会者によって読まれたのはヨハネによる福音書15章11節以下ですが、12節にイエス様のこのようなお言葉があります。「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」口語訳ではこうなっていました。「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」聖書を貫いているものは「神の愛」です。「キリストの愛」です。ところで、この「愛する」ということは、どういう事でしょうか。西成で長く働いておられる本田神父は新約聖書の私訳を出しておられますが、「愛する」という言葉が出てくると、「大切にする」と訳されます。12節をこう訳しておられます。「わたしがあなたたちを大切にしたいように、あなたたちが互いに大切にしたいこと、これこそ、わたしの掟である。」

◆ここに「これがわたしの掟である」という言葉が出てきます。口語訳では、「わたしのいましめ」となっていました。17節に「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」とありますが、この「命令」と、12節の「掟」とは同じ言葉なのです。12節は「名詞」で、「17節の方は「動詞」です。「掟」は「法律」と訳しても「律法」と言い換えても良いのですが、要するに「絶対の規範」です。主イエス・キリストの「心」と言ってもよいと思います。・マタイによる福音書22章34~40節にこうあります。『最も重要な掟』という小見出しの付いた箇所です。<ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。その内の一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。>以前に、「第二も、これと同じように重要である」という部分が重要だと指摘したことがありました。ここでの「隣人愛」は、今日のヨハネによる福音書では、「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と、言い換えられています。

◆そして、これには、イエスの為に命を捨てるという事が含意されているのです。

司会の上田長老のお祈りにもありましたように、イエス様はわたしたちを「友」と呼んでくださいます。わたしたちは神様の限りない恵みによって、今日も生かされています。しかしその「神様のために」、わたしたちのために十字架にかかってくださった「イエス様のために」、「友のために」命を捨てるということが信仰の基本なのです。そういう意味で、わたしたちは受け身の信仰に慣れていますが、神様の為に、イエス様の為に、そして隣人の為に、十字架を負い、命を捨てる、そういう信仰のあり方を大事にしなければと思います。「恵み」には「信仰の服従」が必ず伴うのです。これも宗教改革の遺産です。

◆私たちは今日の礼拝でも毎回の礼拝でも、そして日々の生活の中でもしばしば「主の祈り」を祈ります。「主の祈り」の前半は神様を崇めることです。後半は隣人愛です。心を尽くして神様を愛することと隣人を自分のように愛すること、これが「主の祈りの精神」です。これは旧約聖書の要、「十戒」の精神が正にそうですね。前半は神様を崇め、愛することです。そして後半は人を愛する事です。聖書全体の精神はこの二つのことに尽きると思い思います。アメリカのトランプ大統領の就任式は、日本では夜中でしたから演説全文は朝刊には掲載されませんでした。演説の最後は、定型の言葉 God bless you! でした。そして最後の最後の言葉は、God bless America! でした。トランプさんの問題は、You が America に極限される所にありますね。今朝の日曜学校でも子供達がしきりに「トランプは暗殺される」と真顔で言っていました。

◆いずれにしましても、わたしたちキリスト者の信仰生活というのは、犠牲が伴うのであります。そのような信仰生活へとわたしたちをうながすのが神の愛、キリストの愛以外にはありません。ルターによる宗教改革と言えば、彼は本当に、聖書を読んで、新旧約聖書を原点から読んでドイツ語に訳したことは先ほど申しました。そして彼はヨハネ伝3章16節を「これぞ聖書の核心」と言いました。「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。正にイエス・キリストによって示されたこのような真に犠牲的な神の愛、そして、イエス様はおっしゃっています。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟であり、わたしの戒めであり。これがわたしの命令である」。わたしたちはそのような御愛に捕えられて、信仰生活に導き入れられ、そして、今日まで支えられて、歩んでまいりました。そして、このようにイエス様に愛されているということは、これは永遠の事実なのです。 「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛であり、そのうちで最も大いなるものは愛である」と使徒パウロは言いました。

◆今日の聖書の箇所にはイエス様の誠に喜ばしい御言葉がありました。「わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。」わたしたちはこのイエス様のお言葉を真に受けてよいのです。「わたしの名によって父に願うものは何でも与えられる」と、イエス様はここで

言い切っておられるのですね。けれどもイエス様と一体にされている者として、イエス様の名によって私たちは祈るならば何でも適えられる。このことは信じてよいのです。それで、今年の主題聖句は、繰り返し言ってきましたように、「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」であります。そして、今日の御言葉は、「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」。この御言葉を私たちはこの御言葉を新しい年、日々真実に生きていきたいと思いを。◆それで、わたしたちは、「信仰生活」と言えば、家族を何もかも犠牲にしてというふうな在り様を思います。けれども、英語の格言に、こういうのがあります。

“Charity begins at home.” <Charity>「チャリティー」は、慈愛とか慈善と訳されますね。この英語の格言は、実は聖書の次の言葉から生まれたのです。テモテへの手紙一の5章8節です。「自分の親族、特に家族の世話をしない者がいれば、その者は信仰を捨てたことになり、信者でない人にも劣っています。」私達は、最も身近な隣人、家族、親族を、もっと大切にしなければならないのではないのでしょうか。何もかもわきにおいて、つきっきりで介護しなければならない状況もありますね。その時には、そうすることが、<Charity>なのです。

◆今日のヨハネによる福音書15章16～17節は竹村好香姉の愛唱聖句です。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願う者は何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」竹村好香姉は一昨年7月19日100歳で天に移されました。本当に竹村さんが、今も元気であってくださったらいいのにと、たまに思います。けれども、天と地はもう本当に近くなりました。ですから、行ってしまったと懐かしむのではなく、天と地が一体となって御心の成ることをほんとうに求めていくというのがわたしたちの信仰だと思えますね。竹村好香姉は少女期に御言葉に捕えられて、それから85年信仰生活を続けられました。本当に幸いなことだったと思えます。そして、良い実を結ばれたと思えます。ですから、わたしたちも、自らの体を大切に、主にある兄弟姉妹一人一人を大切に、そして、イエス様の愛と御言葉に促されて、出て行って、豊かに実を結ぶ。そういう信仰生活を、主イエス様は望んでおられるのではないのでしょうか。

◆お祈りいたします。

愛に満ち給う主イエス・キリストの父なる神様。

あなたに選ばれ愛され、常に守られ、今ある事を覚え、心から感謝いたします。どうか、私達は、あなたに愛されたように、愛されているように、互いに愛し、そしてこの日本が、世界があなたの平和に導かれていきますように。どうかわたしたち一人一人が、真に、平和を造り出す者とならしめてください。

この祈り、イエス様の御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。